

大会共通課題に関する運営委員宛

アンケート集計結果

- 一、共通課題に沿いながらも「自由報告」の枠を設ける…賛成 8名

- ・多少の彈力性を残した方がよい。
- ・但し時間的に無理なら(2)でもやむを得ないが
- ・(2)の方がよいと思うが、もし熱心な発表者の気持ちをくじくようなことがあればということ

- 二、共通課題を掲げるだけで「自由報告」の枠は設けない

…賛成 11名

- ・但し共通課題には細かい条件（課題を出した者自身が出来ないような）を並べて発表意欲をそがないようにする。

- ・共通課題五本ぐらい立ててじっくり討論してみたい。もつとも大会が実質三日ならば自由報告に一日当てもよいが、一日間なら今回だけ自由報告をやめにする。

- ・結局のところ共通課題の報告書を何名にするかということによるが、自由報告を設定するために日程を指定する必要はあるまいと考える。

三、その他

1名

- ・但し、課題報告者を五名位にし、例年より少し多くのする。
- ・特に記念大会であること及び年報特別号を刊行せず翌年の年報を記念号的な性格にすることという意味で三十回大会に限り、自由報告は止めにしてよいと思う。
- ・自由報告を別に設けると、課題報告の討議時間が十分にとれない（昨年のように課題報告4人程度では済まないと思う）
- ・課題報告の設け方によってかなり広い参加が可能になる。
- ・但し、共通課題に対する報告希望の要求は尊重する、今年度限りの特別措置とする。
- ・報告は欲ばらず相互の質議・討論・放談を欲ばったものとする。
- ・三十周年を意義あるものとする意欲を貫けば「共通課題」のみとなると思える。
- ・この共通課題ならどこかで触れるので課題に沿った報告とし得る。
- ・一応自由報告を募ってみて、共通課題に出来るだけ組み入れるようとする。